

風土記の丘の花だより³⁰⁵

今、そしてこれから見られる植物(2026年1月24日)

またまた寒波がやって来ました。新池に氷が張る日もあります。20日は二十四節気の「大寒」でした。さすがに寒いはずです。ウメの花が咲き始め、春の兆しが見えないでもありませんが、まだまだ寒い日が続くことでしょう。私はあちこち花を探しますが、見つからないと余計に寒さが身にしみます。



これは、万葉植物園の展望台に行く通路の左側のウメの木です。いつも一番に咲き始める株です。何日か春のような暖かい日が続いたからか、一気に花数が増えました。近くにある万葉歌碑には「春されば 先づ咲く宿の 梅の花 ひとり 見つつや 春日(はるひ) 暮らさむ」という山上憶良の歌が刻まれています。「春されば」とは「春になると」という意味です。昔からウメは春の訪れを告げる花だったのですね。しばらくはウメの花と香りを楽しめそうですね。



春の訪れを告げる花が続きます。木偏に春と書くツバキです。この花は、野生種のヤブツバキではなく、園芸種かもしれません。風土記の丘では、冬の花サザンカは、ほぼ終わりましたが、よく似たツバキが咲き始めたのです。花は季節の移ろいに忠実に咲いてくれますね。花はよく似ていますが、散り際が違います。サザンカは花びらがパラパラと落ちますが、ツバキは花ごとポトリと落ちます。これから、新池の周りではいろいろな品種のツバキが咲き始めます。



旧小早川家住宅の庭やその下の広場に松ぼっくりがよく落ちています。でも普通の松ぼっくりとちょっと違うような感じです。これはトガサワラという木にできる松ぼっくりです。じゃあ、松ぼっくりではなく「トガサワラぼっくり」ですね。同じマツ科の木なので、松ぼっくりでいいのでしょうか。こんな実を植物学では、「球果・きゅうか」といいます。見上げると3本植えられているのが見えます。珍しい木で、野生では、紀伊半島や四国の一部にしか生えていません。



花の少ないこの季節、4つめはキノコでご容赦願います。枯れ木や切り株によく生えているこのキノコはカイガラタケといいます。確かに貝殻に見えないでもないですね。サルノコシカケはみなさんよくご存じですが、同じような生え方のこのキノコはよく見かけものの、名前は余り知られていないのではないのでしょうか。よく似ていてもっと黒っぽいカワラタケというのによく見ますが、それより大きく、裏にシイタケみたいに「ひだ」があるので区別は簡単です。興味があれば、ちぎって裏を観察してみてください。 松下